

目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究仮説	31
III	研究内容	32
1	主体的に学ぶ学習指導	32
2	地域素材の活用	32
(1)	地域素材とは	32
(2)	地域素材のよさ	32
(3)	教材化の視点	33
(4)	教材化の手順	33
3	社会科における問題解決的な学習の進め方	34
(1)	問題解決的な学習の意義	34
(2)	問題解決的な学習の指導過程	34
IV	授業実践	35
1	単元名	35
2	単元設定の理由	35
3	単元の指導目標	35
4	評価の目標	35
5	単元の指導計画と配当時間	36
6	授業の実際と指導の手だて	37
(1)	問題解決的な学習の展開	37
①	学習問題の把握に関する指導の工夫	37
②	学習問題の設定に関する指導の工夫	37
③	学習問題の追究に関する指導の工夫	37
④	人材バンクの活用	38
⑤	学習内容の発表に関する指導の工夫	39
(2)	授業後の児童の声とアンケート結果から見た考察	40
V	研究の成果と今後の課題	40
1	成 果	40
2	今後の課題	40

主体的に学ぶ学習指導の工夫

— 謝花昇の教材化を通して（6年歴史）—

東風平町立東風平小学校教諭 佐久本 広 志

I テーマ設定の理由

これからの学校教育においては、変化の激しい社会に主体的に対応し、創造的に生きていくことのできる能力を育てることが求められている。そのためには、児童一人一人が学習活動に主体的に取り組むことを通して、物の見方や考え方を深めたり、それらを表現したりしながら、自ら意欲的に学び、思考力、判断力、表現力などが一体的に育つように指導の工夫を図る必要がある。

児童が自ら意欲を持って主体的に学習活動を進めるためには、指導する教材に児童を引きつける魅力があり、教師が支援する過程において、児童自身の思考力、判断力、表現力がより効果的に生かされる教材であることが前提となってくる。

小学校社会科第6学年の目標の(1)に、「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について関心と理解を深めるようにし、我が国の歴史や伝統を大切にする心情を育てる。」と示されていることから、主体的に学ぶ児童の育成を地域素材を生かした学習指導の中で工夫して進めることにした。

これまで地域に出かけて見学学習、調査学習を行うと、児童は喜々として参加してきた。しかしながら、見るだけ、調べるだけに終わり、結果として得た知識を自ら再構成して自らの表現方法で発表したり、単元終了後も追跡調査するという姿勢まで高めることができなかった。それは、学習を進める中で、教師が課題を与える場合が多く、児童は受け身の態勢で授業に臨み、自ら問題を考え、解決していく学習の進め方を身につけられなかったことが大きな原因だと考える。

今回、地域素材を教材化するにあたって、児童がより主体的に取り組む、学習の過程において、思考したり、判断したりしながら、この地に生まれ育つものとして、自分なりの生き方についても考えることができるような教材化の工夫を心がけた。それは、自作ビデオでの導入、読み物資料の作成、問題解決的な学習、人材バンクの活用、発表の複線化などである。そして、それぞれの場面で児童一人一人の主体性を大切にし、児童の思いや願いを学習に生かすことを念頭に置いて取り組んだ。そうすることによって、児童の主体的な学習態度が培われ、学習終了後も新たな疑問を持って学ぶ態度が養われると思うからである。

特に、問題解決的な学習は、これから児童が生きていく過程の中で出会う様々な問題に対応していくために必要な、生きる力を育てる学習方法として重要になってくる。児童が自ら問題を見つけ、自分なりに考えたり、判断したり、あるいは体験したり表現したりしながら、問題を解決していく学習活動を通して、問題解決能力を高めていくからである。以上のことから、本研究では問題解決的な学習を授業実践に取り入れた。

沖縄県における自由民権運動の先駆者として、参政権獲得のために活躍した謝花昇は、児童に生きる力を育てる教材として、教材化する価値は高い。児童が主体的に学習し、思考力、判断力、表現力等、自分なりのよさを発揮して課題解決に向かえるように指導の工夫を図るべく、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 身近な地域素材を教材化することによって、児童一人一人が興味・関心をもって主体的に学習に取り組むであろう。
- 2 地域素材を教材化するにあたって、問題解決的な学習を展開することによって、主体的に学習する態度が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

1 主体的に学ぶ学習指導

主体的とは、「自分自身の意志や判断に基づいて行動を決定するようす」とある。（大辞泉より）つまり、自分自身の意志判断によって、自らの責任を持って行動する態度であることを主体的な態度と呼ぶのである。

したがって、主体的に学ぶとは、周りの人に促されて学習に取り組むということではなく、あくまでも、本人の自己欲求の追求、自己実現のために学習する行動を指すことになる。

学習するに際して、主体的に臨むのとは他律的にさせられるのとは、学習の効果が大きく変わるだけでなく、学習者の人間形成、自己形成にも大きく関係する。自ら、疑問を解明したいという内面的な高まりが積極性を生み、「学ばずにいられない」「手を尽くして調べずにいられない」という衝動に駆り立てられ、解決された喜びによって新たな疑問解決に向かっていく。それは、生涯学習社会に生きる児童の育成の点から重要なことであり、生きる力を育むことにもつながっていくものである。

主体的に学ぶための学習活動を成立させるためには、課題の把握が最も重要であると同時に、支援のあり方も大切なポイントになる。つまり、児童の意志を大切にし、問題の設定から見通しを立て、解決に至るまでの過程をいかにして課題解決意欲を持続させるかによって、態度の育成が左右されることになる。

児童は、内面的な高まりがないと主体的に取り組まない。その内面を高めるために、教師は、教材の開発を工夫し、学習を進める中で、いかに一人一人のよさを生かし、思考力、判断力を育てるかが勝負となる。その際、課題設定から結論に至るまで、「自分でやった」という満足感を児童に持たせる指導が大切である。教師は、サポート役にまわり、そのような経験を積み重ねることによって、主体的に学ぶ態度は徐々に育成される。

また、教材の魅力によって児童の内発的な意欲を引き出し、主体的に学ぶ態度が効果的に育成されることもある。そのような意味において、今回は、児童が育った地域に輩出した先人を題材として取り上げた。

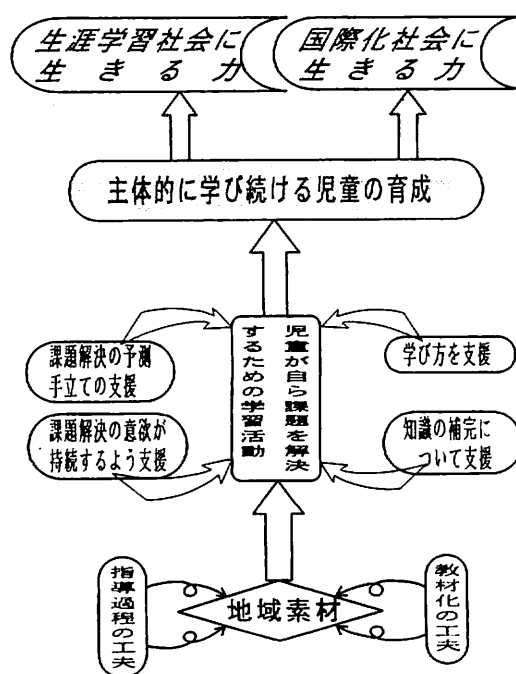


図1 主体的に学ぶ態度の育成

2 地域素材の活用

(1) 地域素材とは

地域の様々な社会的事象や施設、人材などについて学習することは、児童らが地域理解を深め、地域社会の一員としての誇りと自覚を持つようになるという重要な意義を持っている。

具体的には、公共施設、文化的な施設、工場などの物的な素材、地域社会で生活している人や働いている人、地域のために尽くした先人などの人的な素材、地域の自然の3つに大きく分けられる。

こうした素材は、児童らにとって、身近にありながら問題意識をもって関わらないと見えにくいものである。地域素材を教材化するという事は、学習のねらい、児童の実態に即して身近な地域にある学習素材を教材として構成することであり、生涯学習社会、国際化社会に生きていくための自己の確立という点においても重要なことである。

(2) 地域素材のよさ

地域素材を教材化することは、児童の生活の舞台である地域が学習活動の場になるということである。ふだん何気なく生活している場を教材化して利用することは、彼らにとって、この上ない喜びとなるであろう。

また、地域社会の中から教材を開発するという事は、学習の対象をより身近にとらえ、自分自身

や自分の生活との関わりで考えたり、調べたりすることができるというだけでなく、児童の学習活動が学校や教室から地域に広がっていくという発展性が期待できる。

したがって、地域素材を教材化することは、児童らが地域理解を深め、地域社会を大切にしようとする態度を育てる上で、重要な意義を持つと言える。

(3) 教材化の視点

地域素材を教材化するにあたって、地域にあれば何でも教材として利用できるものではない。中には、内容が複雑で難解なものも少なくない。難しすぎて児童の学習意欲がそがれてしまうようでは教材化する価値がない。児童の実態や発達段階に応じて理解できるもの、課題が見つけれられるものでなくてはならない。以下に教材化における視点を示す。

① 学習指導要領の内容、目標が達成できる素材であること。

ア 学習指導要領の目的・内容に即応した教材化を意識し、各学年の目標・内容を効果的に達成するという観点から素材を選択する。

② 児童の学習にふさわしい素材であること。

ア 児童の挑戦意欲をかきたて、適度に難しいが、やれば理解できる内容。

イ 社会的な意義を追究できるもの。

ウ 学習に発展性が期待できるもの。

③ 児童が学習しやすい素材であること。

ア 児童の身近にあって、授業中に無理なく観察や見学ができる場所にあること。

イ 児童が必要なときに調査活動、観察活動に応じられること。

ウ 地域の人々の協力が得られやすいこと。

以上のような視点から素材を選択し、体験的な学習を通して、意欲をもって学んでいけるような教材化を心がけるようにした。

(4) 教材化の手順

謝花昇を教材化した今回の研究では、扱う素材が歴史的人物ということで、教材化する過程で慎重を期した。

まず、学習指導要領の第6学年の目標と内容を確認し、児童にふさわしい内容であるか、児童が学習しやすい内容であるか検討した。

同時に、児童の興味・関心が高いかどうかをアンケート調査する。児童の実態を把握し、教材化のための情報収集をする。主に、文献からの資料が多かったが、地域の有識者から貴重な資料をいただき、授業に活用する。

次に、社会科の年間計画に基づいて他単元との時数を調整、精選を図る。

授業時間内に進められない場合を考えて、放課後でも学習ができるようにやさしい言葉の読み物資料を作る。

また、体験的な学習を取り入れるため、人材バンクから地域の人材を活用した。これらを通して主体的な学習態度を育てる教材化の工夫をした。

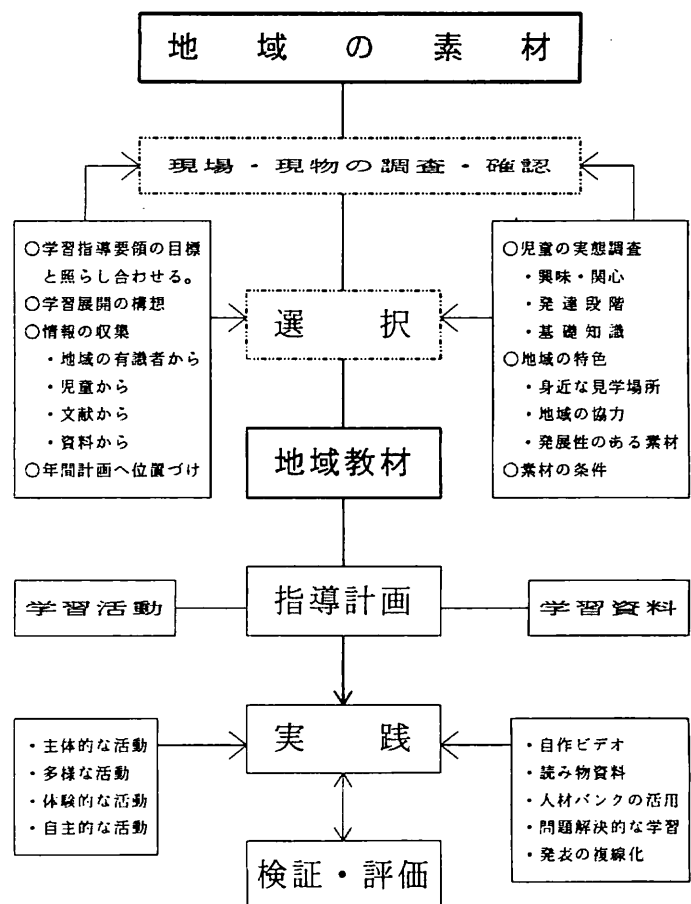


図2 教材化の手順

3 社会科における問題解決的な学習の進め方

(1) 問題解決的な学習の意義

『新社会科指導法事典』の中で、問題解決的な学習とは、以下のようにとらえられている。

問題解決学習とは、子どもが直面している問題を解決することを通じて、子どもたち自身が自らの経験や知識を再構成して発展させようという学習である。

問題解決的な学習で子どもたちは、これまでの学習で学んだ知識、友人、親から聞いたこと、体験などからの既存の知識に加え、教師の支援に支えられながら問題に直面する。そして、問題を明確にし、学習の計画を立て、予想をし、計画に沿って問題を解決していくことを通して学習に対する自信と楽しさを味わっていく。周りの働きかけでなく、自分自身の意志で、これまでのあやふやな知識を確かなものに変えるということに大きな意義がある。

(2) 問題解決的な学習の指導過程

問題解決的な学習は、一般的に「問題をつかむ→調べる→まとめる」の流れで学習が進んでいく。しかし、この流れを「つかむ→調べる→まとめる→広げる」の順序で、さらに、より高い段階においての課題の把握、つまり発展課題の把握までを一つのサイクルとして学習活動をとらえていく必要がある。それは必ずしも一単位時間の中で、問題をつかんでまとめる段階までいくということではない。一小単位を通して問題解決的な学習を進めることにより、教師は柔軟な考えを持って支援できるし、児童は、じっくりと学習ができ、多様な発想が生まれたり、個を生かした指導に持っていきやすい。

① 学習問題の把握

授業の導入にあたり、児童に強い興味・関心を持たせ、主体的に取り組ませるためにもとても重要な場面である。教師は、児童の実態をアンケートや普段の様子からつかみ、どのような素材を教材化するか検討し、効果的に授業に生かす工夫が必要である。

② 学習問題の設定

問題解決的な学習を進めるにあたって、どんな学習問題を設定するかによって、次の調べ学習の深まりはまったく違ってくる。教師は、児童の実態をしっかり把握した上で、調べて、まとめる段階まで、児童が主体的に学んでいけるような学習問題に近づけるよう適切な支援をしなければならない。それには、導入の段階で児童の実態から基礎的な知識をおさえておき、どのような問題が出るか、ある程度予想し、学習のねらいに沿った問題の方向に進めるよう支援する必要がある。

また、どのように学習を進めていくか、学習計画が立てられるように支援してあげる。

③ 学習問題の追究

児童の主体性を生かし、それぞれの学習計画に沿って、調べ学習を進めさせる。今回の場合は、教師がやさしい読み物資料を用意し、それをもとにして進めさせる。また、学習が単調にならないように人材バンクを活用したインタビューを取り入れ、体験的に学ばせる。教師は、それぞれの場面で学んだことを発表のときにどう生かすか、助言しながら見通しを持たせるように支援していく。

④ 学習内容の発表

調べた内容を相手にわかってもらうために、わかったことを自ら再構成することは重要である。そこで、どのような方法で発表した方が、より効果的に伝えられるか、その手法も児童に検討させる。グループで発表する場合には、メンバーの特性を生かし、役割を分担して一人一人のよさを生かした活動を展開させるよう配慮する。

発表する際には、資料などから得た知識を自分たちの言葉でまとめることによって、児童の中で知識が再構成される。その経験が、これまでの知識を確かなものとして定着させることになる。

⑤ 学習内容の発展

学習内容の把握から発表までの一連の経過をたどり、学習のまとめをした後、新たな疑問を見つけ、自己の課題として発展学習に結びつける。

IV 授業実践

1 単元名 謝花昇と自由民権運動

2 単元設定の理由

6 学年の社会科では、国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績などについて関心と理解を深め、我が国の歴史や伝統を大切にする心情を育てることを目標としている。

この単元では、幕末から明治時代にかけて諸改革が行われるに至った経過と、その過程において影響を与えた人物を取り上げ、その業績を調べさせることによって、欧米の文化を取り入れつつ、わが国の近代化が進められたことを理解させるようにするものである。

その中で、自由民権運動というと、板垣退助らの国会開設運動で指導されることが多いが、沖縄県においても参政権獲得運動を通して自由民権運動が展開された史実がある。しかも、その中心的役割を果たした人物が、地元、東風平町出身の謝花昇であり、児童にとっては聞き慣れた人物であること、地域の中に資料が豊富であること等、学習を深める価値が高い教材であると考えられる。

また、謝花昇という人物が、農家の出身でありながら、身分を乗り越えて学問に打ち込み、人々のために立ち上がった姿は、児童に生きる力を与え、主体的な学習態度を培うにはふさわしい教材と判断した。主体的な学習を進めるにあたって、以下のような学習指導の工夫をした。

- (1) 東風平祭りの謝花昇劇を利用した自作ビデオでの導入。
- (2) 問題解決的な学習による主体的な学習の展開。
- (3) 東風平町人材バンクを活用し、有識者へのインタビューを学習に取り入れる。
- (4) 視聴覚器材を活用し、一人一人の思いを生かした発表を行った。

本学級は素直な性格の児童が多い。事前のアンケートから、謝花昇に関しては、地元でありながら、その功績を答えられたのはわずかに2人で、それも「人々のために闘った」「選挙ができるようになった」など、大まかなものであった。「社会科の授業が好きか」という質問に対しては、半数の17人が「いいえ」と答えている。その理由が「覚えることが多い」「内容が難しい」等、社会科嫌いを訴える児童もいる。

授業に入る導入の段階や指導過程の中で、児童の興味・関心を引きつける工夫、一人一人の願いや思いを大切にする教師の姿勢こそが、その後の児童の主体的学習態度への変容につながっていくものである。もともと、児童は地域素材への興味は高いことがアンケートからもわかる。それを、さらに学習しやすくなるように教師が配慮し、支援していくことが大切である。本学習を通して、先人の偉大さ、社会科の楽しさに気づかせたい。

3 単元の指導目標

- (1) 謝花昇を中心とする参政権獲得運動を調べることを通して、自由民権運動が起きたわけやその目的を理解できるようにする。
- (2) 学習を進める中で必要な資料を集めたり、まとめたりする能力や、それぞれのよさを生かした表現活動を通して表現能力を育てる。

4 評価の目標

評価の観点	評 価 規 準
社会的事象への関心・意欲・態度	沖縄の人々のために自由民権運動に取り組んだ謝花昇の生き方に関心をもち、意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。
社会的な思考・判断	謝花昇の業績や自由民権運動について、自分なりの考えがもてる。
観察・資料活用の技能・表現	いろいろな資料、インタビューなどから、謝花の生い立ちや功績等に関することをまとめ、工夫して発表する。
社会的事象についての知識・理解	謝花昇の業績や自由民権運動の起こりとその経過がわかる。

5 単元の指導計画と配当時間（5 時間扱い）

流れ	時	主な学習活動と内容	教師の支援・評価	
			◎支援 △評価の観点	□評価の方法
つかむ 計画を立てる 調べる たしかめる まとめる	1	①自作ビデオ「謝花昇の生涯」を見て、謝花昇と自由民権運動について知り、感想や疑問をもつ。	△参政権、自由民権運動など児童のレベルに合わせて、難語句は教師が解説する。	○難語句については辞典で調べさせる。 □ワークシート ○学習のねらいから問題がそれないように机間巡視をする。 ○困っている子には、例をあげ、「どうして」などの言葉を使って、調べてみたいことを自分の言葉で書かせる。
		②感想や疑問を書く。	◎自分なりの感想や疑問を持たせる。	
		③感想や疑問を発表し合い、互いの感想について意見を述べたり、問題点を指摘し合う。	◎全員が感想や疑問をもち、発表できるようにする。	
		④「謝花昇と自由民権運動」についての学習問題を作る。 ☆自由民権運動にはどんなものがあるか。	△発表（技・表） △感想や疑問から自分なりの学習問題を作ることができるか。（思・判） □ワークシート	
		⑤自分の学習問題に対し、理由をつけて、予想を立てる。 ☆県民の生活を助けるために自由民権運動を起こした。	◎ただ予想するだけでなく理由づけの大切さを説明する。 △筋の通った予想が立てられたか。（思・判）	
調べる たしかめる まとめる	2	⑥予想をもとに、学習問題を解決する計画を立てる。	◎どんな事を調べるのか、5つほど疑問点をあげさせる。	○一つの資料に固執せず、多くの資料を使って情報を収集させる □グループ発表カード
		⑦読み物資料、図書資料を読んで、学習問題を解決する。	△いろいろな資料を使って、問題を解決しようとしているか。（知・理）	
		⑧浦崎栄徳さんにインタビューして学習問題を解決する。	◎インタビューする事項が重複しないように内容を精選。	
		⑨調べてわかった事をまとめる。	△自由民権運動について理解できたか。（知・理）	
		⑩解決した内容をいろいろな方法で発表し、検討する。（本時）	△意欲的に発表会に参加しているか。（関・意・態）	
調べる たしかめる まとめる	3	⑪学習してきたことを振り返り、謝花昇と自由民権運動についてイラストでまとめたり、感想文を書いたりする。	◎謝花昇の生き方に共感させ、先人の努力と願いが、今日の沖縄をつくりあげていることをおさえる。 △謝花昇と自由民権運動について、イラストでまとめることができるか。 △謝花昇の生き方を中心に感想を書くことができるか。（知・理）（思・判）	○謝花昇の功績を思い起こさせて、その生き方にふれながら感想文を書くように助言する。 ○イラストは簡単にかくようにして、謝花昇と自由民権運動についてまとめるように助言する。 □イラスト、感想文

6 授業の実際と指導の手だて

(1) 問題解決的な学習の展開

① 「学習問題の把握」に関する指導の工夫

学習を進めるに際し、学習問題を把握するための導入に自作のビデオを使用した。ビデオの内容は、国会の映像から始まり、沖縄には国会議員がいなかったというところからスタートする。議員がいなかったことによって起こる様々な問題について投げかけ、謝花昇の紹介に入っていく。昇の生い立ちに次いで、当時の沖縄の貧しい生活の様子を説明し、県民の、特に農民を救うために立ち上がる経過を追う。東京大学を卒業後、県庁に就職した昇と奈良原知事が対立する場面は、昨年、東風平祭りで演じられた「謝花昇劇」の映像を利用し、言い合いする様子がリアルに感じ取れるようにした。場面に応じて音響、BGMに配慮し、児童の興味を引くような工夫を施した。

学習問題の把握にビデオを利用したねらいは、

- ア 児童の興味・関心を高めるため。
 - イ 難解な語句が多いので映像で説明した方が内容を把握しやすいため。
 - ウ 当時の様子をイメージ化させるには映像が効果的であるため。
- などである。

自作ビデオを使用した結果、次の成果が得られた。

- ア 地元の人が演じているので集中して見ていた。
- イ ほとんどがねらいに沿った問題を作成できた。

② 「学習問題の設定」に関する指導の工夫

ビデオと読み物資料から、大半の児童が指導目標に沿った学習問題を設定することができたが、うまくできなかった児童には、机間巡視をして支援した。支援の目安として、自由民権運動に関わりのある問題に近づけるようにし、視点がずれている問題に対しては、謝花昇と自由民権運動についての関わりを意識させるような方向で支援していった。

導入で、うまく問題を把握することができれば、問題の設定はすんなりいくことがわかった。

③ 「学習問題の追究」に関する指導の工夫

自分なりの課題を持った児童が、調べ学習に入っていくときに、ベースとなる読み物資料が必要である。そして、それは学級のどの児童にも理解できる内容のものでなくてはならない。すべての児童が生き生きと学習に臨める環境を整えるということからも、やさしい読み物資料必要だと考え、教師自ら作成した。(資料2)

資料2の読み物資料は、第1時にワークシートに添付して配布し、学習問題の設定の段階でビデオだけでは理解しにくい場合に利用するよう呼びかけた。

第2時から学習問題の追究に入っていくが、一人が進められる児童は、本人に任せて学習を進めさせ、読みの得意でない児童は、グループ読みによって仲間と一緒に読ませた。

もちろん、資料はこれだけに限らず、児童の

資料1 児童が作った学習問題

謝花昇はなぜ沖縄県のために、自分の一生を自由民権運動に捧げたのか。

奈良原知事は沖縄にどんなことをしたか。
また謝花昇は、その奈良原知事とどんなふうに対峙したか。

謝花昇は自由民権運動で、どういうことをしたのか。
それで知事はどうなったのか。なぜ沖縄代表の人がいなかったのか、もしもいたらどうなっていたのか。

資料2 読み物資料



みなさんは、国会について知っていますか。国民の生活をよくしたり、守ったりするために政治について話し合う場のことです。沖縄県から国会の代表が出るようになったのは、大正元年のことです。本土から三十二年もおくれました。しかし、その選挙権が与えられたのは、謝花昇を中心とした人々が血のじむような努力をした結果、やっと与えられたものなのです。

畑仕事のあい間に勉強

謝花昇は、一八六五年(百三十一年前)、東風平村字東風平の農家の長男として生まれました。

幼い頃から勉強の好きだった昇は、畑仕事のあい間に学校に行き、窓ぎわで先生の話をよく聞いていました。「農家の子どもに勉強は必要ない」と父親はしかりましたが、母親が父親にお願いして、やっと学校に入学することができました。

村の学校を一番の成績で卒業した昇は、師範学校(学校の先生を育てる学校)に入りました。昇が十七才のときでした。師範学校でも優秀な成績を取った昇は、東京の優秀な学生を県内から選んで送り出す制度)として、東京の学習院大学に入学することになりました。農民出身の昇以外は、みんなお金持ちの家や身分の高い家

家庭から、あるいは図書館から持ち寄ったものも大いに活用して幅広く追究するように指導した。すると、児童は図書館の難しい資料をコピーしてきたり、ある児童はマンガ化された偉人伝を持参して利用する様子も見られた。

自力での解決が難しかった児童も同グループ内のメンバーと読み進めていくうちに理解を深め、学習終了後も「宿題としてやりたい」という意欲を示した。自分にもできたということが嬉しかったようである。

④ 人材バンクの活用

調べ学習を進めるうちに会う様々な疑問を解決しようと、地域の人材バンクを活用して、有識者へのインタビュー学習を取り入れる。資料にはない昇の幼少時代の様子や県庁時代の待遇、知事との関係について質問が集中した。

インタビュー学習のねらいは、

ア 地域の人材を知る機会となる。

イ 有識者の専門的な立場からの説明でより説得力が増す。

ウ 体験的な学習活動に取り組むことにより、児童の経験の幅を広げる。

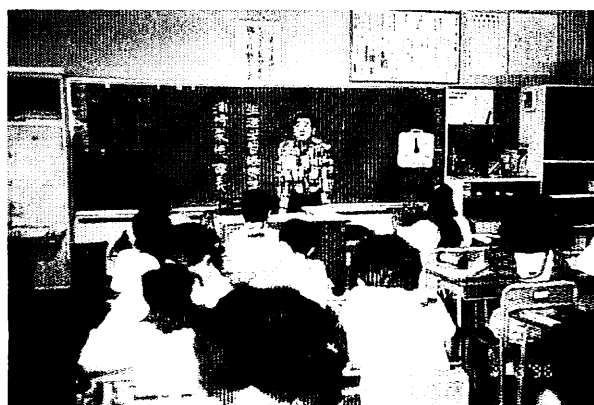
などがあげられる。

児童は、どんな質問にもていねいに詳しく答える浦崎課長（町生涯学習振興課）の話に引き込まれ、時間のたつのも忘れて一生懸命メモをしていた。幼少期から県庁時代、知事と対立した時代へと進むうちに「この先どうなるんだろう」と、児童の表情は一層緊迫感を増していた。

授業後の感想に「聞いているうちにドキドキしてきた」「どうなるんだろうとワクワクしてきた」など、夢中になって聞いていた様子がうかがえる。時間になっても、「もっと聞きたい」「また、次の時間も話を聞きたい」という声があり、浦崎課長の勤務場所を伝えたと「夏休みの自由研究で課長を訪ねて謝花昇の研究をしたい」という児童まで現れた。

教師が思ったより反応が大きく、児童はこういう学習を望んでいたんだということを改めて気づかされた。今後も人材をうまく活用し、地域とのふれあいを持たせたい。それによって、地域を知ることにもつながり、地域のよさを知ることにもなるだろう。

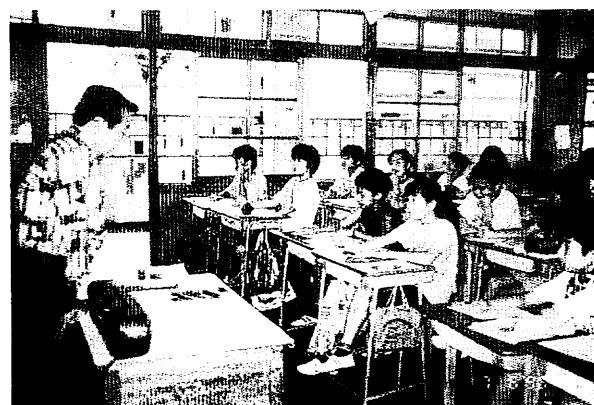
写真1 浦崎課長の話に耳を傾ける



資料3 東風平小学校人材活用バンク

小単元名	人 材	連絡先	導入場面	導 入 の ね ら い
ふゆと遊ぶ 1年 1月	新 垣 ト ミ	998-2533	まとめる段階	・昔から伝わる冬の遊びについて地域のお年寄りや祖父母に教えてもらうことにより、お年寄りと触れ合う。
ムーリーの由来、ムーリー作り、生店科 2年 2月	富 銘 直 光 金 城 照 子	998-6112 998-3499	導入、調べる段階	・郷土の伝説に関心をもち、地域の「お年寄り」によってムーリー作りをする。
町のむかしをみつ けよう 3年 2月 やさしい育て方 3年 12月	富 銘 直 光	998-6122	まとめる段階	・地域のお年寄りから昔の村のようすを聞くことによって、学習への関心を高める。
くらしのなかのこ みと水 4年 5月	南都水道金業団 城 間	998-2151	まとめる段階	・自分たちの使う水は、どこから送られてくるのかに関心をもち水道の経路を調べる。
水産業のさかんな 地域を訪ねて 水産業にはげひ な 5年 6月	産川漁業組合 五 城 保	998-4298	調べる、まと	・産の近くで働く人々の様子について ・漁業で働く人たちの願いや悩みを まとめ、現在のさびしい漁業の 様子について理解する。
15年続いた戦争 平均な日本をめ して 5年 6月	中 村 春 子	998-7711	調 べ る	・戦争体験者の話を聞くことによ って、戦争の悲惨さを知り、平 和への願いを深める。
日本国憲法と国の 政治 5年 11月	町役場 浦 崎 実 速	998-4383	調 べ る	・郷土の偉人「謝花昇」の話を聞 くことによって、当時の日本、 沖縄の状況を知ることができる。
世界の中の日本 日本と深く結びつ く国々を知ること	国際交流財団	836-3900	調 べ る	・いろいろな国の人々と話し合っ て世界の人のくらしを知る。

写真2 熱心にメモをとる



資料4 授業後の児童の感想

感想

第2回は、のぼるのこをほくしてって とてもゆしくなっ
て、とてもゆかりやすかった。
いつも、楽しい勉強でした。もっと第2回とまた
勉強したいです。

感想

とてもおもしろかった。どんどん話を聞いて
いくうちにどうなるんだろうとドキドキして、謝
花昇のことがちょーっとだけわかった。

⑤ 「学習内容の発表」に関する指導の工夫

資料5 グループ発表カード

1. 各グループの発表を聞いて、当てはまるところに○をつけ、感想や質問、疑問点を書きましょう。

目	内容がよくわかったか	資料をうまく使っていたか	感想・質問・疑問
ビデオ	☒ はい	☒ はい	みごととこのナレーションの 声が大きくてとてもきき とりやすかったです。
オ	☒ はい	☒ はい	
A	☒ はい	☒ はい	
オ	☒ はい	☒ はい	第2回のぼるのこ、しごと の内容がわかったのが、 よかった。
ハ	☒ はい	☒ はい	
セ	☒ はい	☒ はい	いろいろなしごとをわづか したので、内容が、よくわかって きた。
新	☒ はい	☒ はい	
聞	☒ はい	☒ はい	
ビ	☒ はい	☒ はい	最初は、心算だったけど うまくなってきたので、うれし い、なです。
デ	☒ はい	☒ はい	
オ	☒ はい	☒ はい	
る	☒ はい	☒ はい	
劇	☒ はい	☒ はい	声も大きくなって、よくきこえ た。
劇	☒ はい	☒ はい	

写真3 劇化による発表

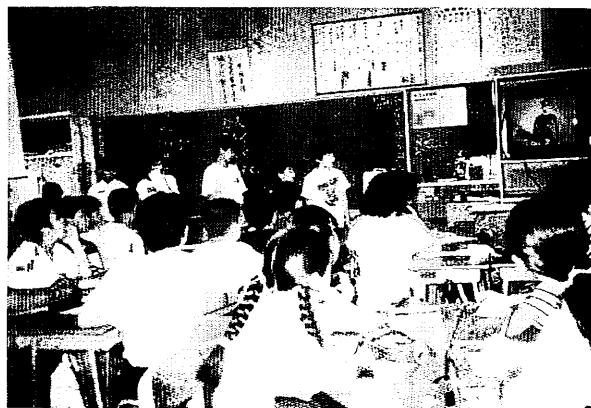


発表方法は、調べた内容に基づいてどの方法
で発表した方がよいか児童の意志に任せ、グル
ープ作りも児童に任せる。

それは、児童の主体性を育て、自分たちで調
べてきたことだから、どのような方法で発表した
方がよいか、自分たちで考えさせることがよい
と判断したからである。

児童は、調べていく段階で積極的に協力し合
う体制ができつつあったので、発表に向かう準
備期間で、さらにお互いを認め合い、それぞれ
にうまく役割を分担し、楽しく発表することが
できた。特に、視聴覚機器にふれ、その使い方
を体験できた児童は、「ビデオを授業に生かせ
るということがわかった」と、感想を述べるな
ど、新たな経験が今後の主体的に学ぶ態度につ
ながってくると思われる。

写真4 ビデオにまとめて発表



(2) 授業後の児童の声とアンケート結果から見た考察

これまでに経験のない問題解決的な学習に対して、どう取り組んだらよいかわからないという状態からスタートした授業であったが、方向性が見えてくると、児童は教師の手を離れてどんどん意欲的に自分たちで学習を進めていった。チャイムが鳴っても、「もう少し続けたい」「家でやってもいい?」と、授業の継続を訴える声が聞かれた。

表1 社会科の授業に関する意識の変化 単位(%)

質 問 事 項	授業前	授業後
①社会科の授業が好きである。	47	88
②謝花昇について調べてみたい。	56	88
③謝花昇について知っていることがある。	16	100
④調べ学習に興味がある。	24	62
⑤調べてみたいことがある。	8	56

資料6 授業後の児童の感想

謝花昇と自由民権運動の学習を終えて	氏名	学年
1. 学習して印象に残った場面をかいたイラストでかいてみよう。		
		
2. 今回の社会科の授業を終えて感想を書いてみよう。		
私は、謝花昇の名前を知っていたけれど、中継のためにしたことなどは、ぜんぜん知りませんでした。 でも、勉強して、自由民権運動をやったことや、命をかけて、中継の人たちのためにがんばったことが分かりました。 ケルソーでOHPをやることになって、中山問題を調べることになって、奈良原知事との対立の勇気はすごいなと思いました。 OHPを使うのも初めてで、とても楽しかったです。		

暗記事項が多く、社会科は苦手であるという児童が多かった事前のアンケートに比較して、問題解決的な学習を取り入れた今回の学習により、今後も「謝花昇について調べてみたい」という児童が増えた。主体的に課題を解決し、学習を深めていく時の具体的な学び方がわかったことにより、「自分でもここまで調べることができるんだ」という自信が、児童の生き生きとした表情から感じられる。その自信が、これから他の学習にも波及し、ひいては、将来の問題解決能力につながるものと思う。

V 研究の成果と今後の課題

1 成 果

- (1) 地域素材を教材化するにあたって、興味・関心を高め、問題解決的な学習で進める工夫をすれば、児童は、主体的に学習活動に取り組み、成就感を得ることがわかった。
- (2) 問題解決的な学習を進める手だてとして、体験的な活動を多く取り入れることによって、児童は生き生きと主体的に学習に取り組めることが確認できた。
- (3) ビデオ教材による学習への導入は、イメージ化を図る上で非常に効果的であることがわかった。特に、歴史学習においては、その時代背景や当時の様子をイメージすることが児童には難しく、教師が説明するより、映像で表現する方が効果的でインパクトもあるとわかった。
- (4) 人材バンクを利用した学習は、授業形態に変化を持たせ、児童の強い興味・関心を引き、地域へのつながりを持つことにつながった。
- (5) 視聴覚機器を発表に利用したことにより、学習の幅を持たせることができた。

2 今後の課題

- (1) 問題解決的な学習を進める上で、社会科の年間指導計画の見直しと内容の精選を図ること。
- (2) 学習内容の発表の段階で新たな疑問の解決方法を工夫すること。
- (3) 問題設定の段階で効果的な支援を工夫すること。
- (4) 確かめる段階で、発表だけでなく、討論会やディベート的な話し合いも積極的に取り入れること。

< 主な参考文献 >

文部省	『新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造』	東洋館出版社	1993年
文部省	『初等教育資料平成6年11月号』	東洋館出版社	1994年
朝倉隆太郎	『新社会科指導法事典』	明治図書	1983年
古川清行	『社会科指導の改善・変革への提言』	東洋館出版社	1993年